

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	G2603
代表機関名	奈良先端科学技術大学院大学
主担当研究者所属部局	情報科学研究科
関連研究分野	ソフトウェア
主担当研究者	松本 健一
事業名	ソフトウェアエコシステムの理論構築と実践を加速する分野横断国際ネットワークの構築

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた7名の派遣に対し、最終的に300日以上派遣した者が6名（助教4名＝300日、304日、304日、博士研究員2名＝318日、300日）、300日未満の者が1名（助教1名＝124日）となった。 ・計画どおり3名を招へいした。 ・到達目標の1つである国際共著論文に関しては、目標以上の成果を得ており、発表論文の被引用回数も増えている。論文の派遣者が筆頭著者である発表論文が、国際会議等で最優秀論文賞を受賞していることも評価に値する。 ・主研究担当者が主催する国際研究集会も計画通りに開催され、若手研究者がその企画・運営に参加する機会を与えている。 ・1名が300日以下の派遣となり、目標を下回っているが、これは、この派遣者が派遣先の一つであるカーネギーメロン大学の助教として採用されたためであり、むしろ、人材育成がうまくいっている結果と捉えられる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・応募時に3機関であった協力機関が事業を通じて5機関に増えており、大半の派遣者が複数の大学に中長期滞在していることは好ましく、国際ネットワーク形成や研究者個人の人脈形成に本プログラムが大きな役割を果たしたと評価できる。 ・到達目標に掲げた課題について実施し、新しい研究領域の創設に関し研究成果を上げ始めている。 ・国際拠点の形成についても IWESep という国際会議を拠点として、永続的に議論する枠組みは生まれた。拠点形成としては、まだ緒に就いたばかりであるが、一定の成果は上がっているものと考えられる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

Ⅱ 今後の展望

評 点 4

コメント

- ・国際研究集会 IWESEP は IEEE のスポンサーシップを得て今後も継続されることが決定し、国際研究集会 APSEC2018 が来年日本で開催される等、本プログラム参加の若手研究者がその中心的役割を担うことが期待でき、この IWESEP を通じた連携は今後も続くことは期待される。
- ・本事業の海外の連携先について、大学間学術協定などに発展したのかが明確でない。また、本拠点が今後どのように継続するかについての組織的支援についても明確でなく、継続性については明らかでない。
- ・6名の若手研究者を派遣し、その1名が派遣先の一つであるカーネギーメロン大学の助教として採用されており、その意味での継続性は担保されている。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 4

コメント

- ・国際共同論文は、採択論文数、被引用数も増加している。派遣先も4カ国、5大学に及び、派遣者らは当該分野を担う人材になりつつある。連携先の教員や奨学生に採用される等の実績も上げている。
- ・派遣した若手研究者が派遣先の一つであるカーネギーメロン大学の助教に採用されるなど、人材育成としての効果も上がっている。
- ・将来性が明確でないものの IWESEP という国際会議を中心とした拠点形成が行われ継続している。

以上のことから、総合的に高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【Ⅰ（１）、（２）】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【Ⅱ、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない